

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 国語科〉

<p>1. 「分かる」から「できる」を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度村学力調査から、全国平均を下回る結果であった。特に「書くこと」の領域では、全国平均よりも-27%と大きく下回った。また、「話すこと・聞くこと」は全国平均から-12.3%下回っていた。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から辞書を引かせる習慣を身に付けさせる。時間をかけて漢字学習の徹底を図る。 自分の考えを説明したり書いたりする機会をさらに増やす。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文指導を定期的に設け、書く機会を増やす。 漢字のミニテストや再テストを定期的実施して、定着を図る。 学習の感想や自分の意見などを交流して、質疑する機会を設ける。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文指導を定期的に設け、書く機会を増やすと共に、作文内に漢字を使う文字数を設定し、漢字の活用能力を伸ばす。 漢字のミニテストや再テストを定期的実施して、定着を図る。 多様なジャンルの読書にチャレンジさせ、読みの幅を広げる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①漢字ドリルを用いた筆順や字形の指導、月に2回程度の漢字10問テストを実施する。学期に2回の50問テストでは100点をゴールにした再テストを繰り返し実施する。毎週作文による、作文指導及び漢字の活用を図る。</p> <p>②考えや意見を交流・質疑する話し合いの場を設定する。全校朝会における講話内容の要約カードに取り組む。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①漢字ドリルやテストの進捗や達成状況を学期ごとに検証し、70点以上を目指す。毎週作文の記録を学期ごとに検証し、漢字使用数50文字以上を目指す。</p> <p>②ノート記録や話し合いの様子、全校朝会要約カードの記録を年間実施・検証し、要約して書ける児童7割を目指す。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①漢字ドリルを用いた筆順や字形の指導、月に2回程度の漢字10問テストを実施する。学期に2回の50問テストでは100点をゴールにした再テストを繰り返し実施する。毎週作文による、作文指導及び漢字の活用を図る。</p> <p>②考えや意見を交流・質疑する話し合いの場を設定する。全校朝会における講話内容の要約カードに取り組む。</p>	<p><検証方法></p> <p>①漢字ドリルやテストの進捗や達成状況を学期ごとに検証し、70点以上を目指す。毎週作文の記録を学期ごとに検証し、漢字使用数50文字以上を目指す。</p> <p>②ノート記録や話し合いの様子、全校朝会要約カードの記録を年間実施・検証し、要約して書ける児童7割を目指す。</p>
<p><方策></p> <p>①漢字ドリルを用いた筆順や字形の指導、月に2回程度の漢字10問テストを実施する。学期に2回の50問テストでは100点をゴールにした再テストを繰り返し実施する。毎週作文による、作文指導及び漢字の活用を図る。</p> <p>②考えや意見を交流・質疑する話し合いの場を設定する。全校朝会における講話内容の要約カードに取り組む。</p>	<p><検証方法></p> <p>①漢字ドリルやテストの進捗や達成状況を学期ごとに検証し、70点以上を目指す。毎週作文の記録を学期ごとに検証し、漢字使用数50文字以上を目指す。</p> <p>②ノート記録や話し合いの様子、全校朝会要約カードの記録を年間実施・検証し、要約して書ける児童7割を目指す。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>文章を書く力、漢字の活用能力が向上した。お互いで作文を読み合うことで、表現力や語彙力の学び合いにもつながった。</p> <p>要点を押さえて話を聞く態度や力が伸びた。</p> <p><課題></p> <p>漢字の習熟はまだ不十分で、字形を揃えて丁寧に書くことに課題が見られる。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を書く際に習った漢字を使うこと。 感想が一律の表現にならないように指導すること。 友達の意見や考えを取り入れて、自分の考えをもてるようにすること。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感じたり考えたりしたことを表現豊かに詳しく文章化できる児童 			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和6年度村学力調査から、領域全般で全国平均を-19.4%と大きく下回っていた。特に「都道府県の様子」で-21.3%、「伝統と文化、先人の働き」で-22.4%下回っている。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">地図帳や教科書の活用の機会を設ける。ノートやICT機器の活用方法を提示する。自分で調べまとめ解決する学習方法の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">単元の学習計画の見直しをもたせ、学び方を理解させるために、ICT機器を効果的に授業の中で活用し、提示したり操作したりさせる。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">日本の国土の様子については、地図帳などの資料を活用しながら特徴を発見・解決する実践を行う。地域ごとのくらしや産業の様子については、ICT機器を使って現地の課題や特徴を調べ、工夫や努力について問題解決する実践を取り入れる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①ICT機器を使い、スライドを作成し授業の中で活用する。またクラスルームに資料を載せて、読み取る学習を進める。②くらしや産業の学習では、現地の努力や工夫に気付かせ、どのような成果と課題があるのか考えさせながら学習を進める。③スキルタイムを使って、国土の様子や特徴などを調べて白地図に記入させることで、既習の学習内容を復習する時間を確保する。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①ノートなどの学習記録の進捗や達成状況を通年検証し、適切に予想やまとめが書ける児童7割を目指す。②ノートなどの学習記録や発言の状況を通年検証し、適切に記録した発言したりできる児童7割を目指す。③プリントや白地図などの進捗や達成状況を単元の節目や学期末に実施・検証し、理解度7割を目指す。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>現代日本の社会的な課題を知り、自分たちなりの意見や考えをもって課題解決できるようになってきた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>内地のような社会科見学が難しい実情から、課題をイメージできず自分事としてとらえきれていない。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">リモートの社会科見学などを積極的に取り入れ、現場の様子を見たり、働く人の話を聞いたりする機会を設ける。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">社会的な事象に興味をもち、課題に目を向けて考えや意見がもてる児童	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、すべての領域において全国平均を下回っていた。中でも「変わり方調べ」と「折れ線グラフと表」に課題がある。 「変わり方調べ」における○や□を使った式の関係性や、「折れ線グラフと表」におけるグラフの目盛りの読み方など、基礎基本的な知識を身に付ける必要がある。 算数全般的において「主体的に学習に取り組む態度」の力を引き上げる必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎授業、前時のおさらいを丁寧に行う。授業のねらいにつながる既習内容を確認することで、児童の不安感を軽減し、主体的に自力解決できるようにする。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、ICT等を使って問題を可視化する。例えば、「小数」における文章問題では、数直線や線分図を使ってわかっていることや聞かれていることを整理する。また「面積」や「角の大きさ」の学習では具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①毎時間、授業の始めに既習内容の確認を行うことで、学習に対する不安感を軽減できるようにする。</p> <p>②自力解決の時間を十分にとるとともに、ヒントカードやICT教材などを使い、児童に自分の力で解けた実感をもたせられるよう支援する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、ワークテストの知識と技能(表面)において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。</p> <p>②学習の振り返りを検証することで、学習に対する意欲や理解の具合を観察し、指導に反映させる。2学期中に概ねの児童がポジティブな振り返りをできるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①毎時間、授業の始めに既習内容の確認を行うことで、学習に対する不安感を軽減できるようにする。</p> <p>②自力解決の時間を十分にとるとともに、ヒントカードやICT教材などを使い、児童に自分の力で解けた実感をもたせられるよう支援する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、ワークテストの知識と技能(表面)において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。</p> <p>②学習の振り返りを検証することで、学習に対する意欲や理解の具合を観察し、指導に反映させる。2学期中に概ねの児童がポジティブな振り返りをできるようにする。</p>
<p><方策></p> <p>①毎時間、授業の始めに既習内容の確認を行うことで、学習に対する不安感を軽減できるようにする。</p> <p>②自力解決の時間を十分にとるとともに、ヒントカードやICT教材などを使い、児童に自分の力で解けた実感をもたせられるよう支援する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、ワークテストの知識と技能(表面)において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。</p> <p>②学習の振り返りを検証することで、学習に対する意欲や理解の具合を観察し、指導に反映させる。2学期中に概ねの児童がポジティブな振り返りをできるようにする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>問題に対して、既習事項をもとに解決方法を考え、自分なりに解放を考え、説明できるようになった。</p> <p><課題></p> <p>計算能力や作図の正確さ、公式の暗記など、基礎的・基本的な学力に課題がある。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算や作図など、技能面は反復練習を行い、 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>基礎学力が定着していること。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の領域が全国平均から14%程度大きく下回っている。また、「電気のはたらき」は-31.8%下回っており、学習内容の定着が見られない。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業、ノート指導で理科における学び方、問題解決学習の習慣を図る。 ICT機器を使って、視覚的に学習内容の確認を行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物を準備して、興味や関心を高めたり、実感を伴った理解を促したりできるようにする。 ICT機器を使った学習補充を行って理解を深めさせる。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習を通して、特に予想や考察場面で生活経験や既習事項を根拠に考えられるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> ①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。 ②単元末には学習内容を整理・復習できるようにまとめの学習カード書く時間を確保する。 ③具体物を調べたり、ICT機器を使って図や写真、動画などを見て調べたりして理解を深められるよう授業の中で活用する。 	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> ①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を通年検証し、学習に進んで臨む児童7割以上を目指す。 ②単元末に学習カードの達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。 ③ノートやプレテストの進捗や達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>グループによる予想、実験、話し合いの様子が意欲的、活発になった。問題を主体的にとらえて解決に向けて学習できるようになってきた。</p> <p><課題></p> <p>個別に予想・考察場面で文章化が難しい児童いる。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の意見や考えを参考にして、深められるような場を意図的にもたせること。 イメージ図を用いるなど、考えを文章化することが難しい児童も発信できる工夫をすること。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を見出し、主体的に問題解決するための予想や考察がしっかり表現できる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・既習の楽典知識、拍感覚の技能、歌唱の技能が十分に定着していない児童が多く見られる。一方で学習内容の発展により個別の楽器を演奏する機会も多く、全体指導が難しくなっている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の力が低く、児童の関心や意欲を生かして学習を進める必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵譜などを用いて曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。 ・一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行う。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。 ・ICT 機器及び教材を用いて、自らの学習状況に合わせた学習の仕方を選択できるようにする。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心や意欲を引き出す教材選定を行い、短いフレーズの合奏など達成感を味わえる場面を増やす。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）には ICT 機器も活用し、自分の担当楽器や進度に合わせて学習方法を選択できるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）には ICT 機器も活用し、自分の担当楽器や進度に合わせて学習方法を選択できるようにする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）には ICT 機器も活用し、自分の担当楽器や進度に合わせて学習方法を選択できるようにする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を用いて学習方法を選択することは効果的であった。8割の児童が、正しいリズムや音程で器楽表現することができていた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読譜能力に課題が見られた。音価や拍を認識することに課題がある。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き視聴覚資料を用いて器楽指導を行う。 ・読譜力向上に資する、家庭学習で活用可能な教材を開発する。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p>表現の技能を得たり生かしたりしながら、表現の工夫を深めることのできる児童。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生では学習経験が豊富になる。表したいことに適した材料や用具を選び、ひとつひとつの形や色の意味などを考えながら表し方を工夫するといったことができるようにする。 ・表したいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。 ・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。 ・工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方を紹介する。 ・材料や道具などの使い方や工夫できるところや組み合わせることなどを確認する。 ・アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具などの使い方を掲示や ICT 機器を活用したり、工夫している児童の活動を紹介したりする。 ・自分の思いや気持ちを主体的に表すことを試せるような活動の場を設定する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方や工夫している児童の作品を紹介して表し方の工夫のポイントをおさえる。</p> <p>②手や体を大きく動かす活動など、体全体の感覚を通して気持ちを開放しながら作品をつくるような場を設定する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期に基本的な技能を観察し、以降支援が必要な児童には適宜支援を行っていく。</p> <p>②児童や作品の観察。自分で発想したり、考えたり活動をした時に全児童がさらに表現の深まりを体験できるようにする。学期ごとに発想を問うような題材を実施し、発想が思い付かない児童には適宜支援を行っていく。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。 ・手や体を大きく動かす活動など全体の感覚を通して行うような活動ができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいものに合わせて様々な工夫や発想をさらにできるようにする。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。 ・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p>自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができる児童。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭科の学習は、自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。・手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。・学習した調理を生活の中でも活用できる技能を定着させる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭科は今年度からの学習のため、過去の記載はなし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・写真や動画を活用してまずはわかる工夫をする。・ICT機器を活用して、繰り返し復習できるようにする。・練習時間を十分にとり、技能の定着を図る。・家庭でも実践できる課題を出し、生活の中で工夫して実践できるようにする。・話を聞く姿勢、コミュニケーションの取り方が身につくようにし、授業内の活動がよりよくなるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブックで自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用させる。③話を聞く姿勢、友達同士や教員と児童の間のコミュニケーションの取り方を毎時間伝える。掲示物で意識をよリモたせる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①作品の観察と技能テストを行う。児童が、手縫い・ミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。シンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題の確認をする。学習したことを家庭で実践できているか、自分なりの工夫ができているかを確認する。長期休みに課題を出す。8割以上の生徒が家庭で学習を行うことを目標とする。③3月に、1年間の授業の振り返りシートに取り組み、自分の姿勢やコミュニケーションの取り方を振り返る。5割以上の生徒がよくなったと回答することを目標とする。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・生活の中で活用させる課題についての取り組みはよくできていた。・基礎縫いについても定着してきている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートが実施できなかった。」	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業規律を保ち、学習の定着を図る。・友達とのコミュニケーションの取り方を指導していく。・技能の定着をはかるため、ICT機器をより活用していく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>学んだことを生活に生かしていこうとする児童。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知る、する、見る、支える、4つの観点で運動を楽しめるように、各領域において児童が「目的意識」をもって「必要感」を感じて学習していく必要がある。特に、チームでの協力が必要なボール運動領域において、ボールを持っていないときの動き方について、わかって、できる工夫をしていく必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を出して準備運動や整理運動をする。 ・学習の見通しをもち、振り返り時間を確保する。 ・ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りを大切にする。 ・ICT機器を活用し、自分やチームの動きを見える化する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p><方策></p> <p>①ホワイトボードやICT機器を使って、空間認知できるようにする。</p> <p>②準備運動及び感覚づくりの運動を充実させ、できることを増やしていく。</p>	<p><検証方法></p> <p>① チームの課題を見付けたり解決したりするために、使用したいタイミングで使えるように環境を整備する。ネット型、ベースボール型、ゴール型と学習を計画し、年間を通して客観視するメリットを感じられるように、振り返りの時間等に適切な見方を指導していく。</p> <p>②ボール運動の準備運動では、その単元で高めたい基礎的な技能を時間内に取り入れる。また、単元中、帯でその運動を取り入れる。さらに、音楽を使用してリズム感をつけて、心と体をほぐせるようにする。全児童がゲームを成り立たせるうえで最低限必要な技能が身に付くようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>ゲームの合間やゲーム後など、多様な時間においてプレーを振り返る児童が多かった。ボードやICTの活用により視覚的に捉えることができた。</p> <p><課題></p> <p>チーム及び個人のふりかえりを「毎回書くのか」「時間内にどう終わらせるか」が課題である。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題やめあてを明確にして学習するために児童の思いをふりかえりや対話から見取りながら学習を一緒に作っていくことが必要である。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>自分やチームの課題をもち解決に向けて仲間と協力しながら解決していける児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が50%程いる。 ・聞き取りや読み取りが苦手な児童が30%程いる。 ・ローマ字の読み、書きが苦手な児童が40%程いる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。 ・掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。 ・スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材の活用(カフトなど)により復習を繰り返し、既習学習を確実に定着させる。 ・掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①ICT教材の活用(カフトなど)を導入・復習で多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。</p> <p>②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。</p> <p>②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を65点に引き上げる。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①ICT教材の活用(カフトなど)を導入・復習で多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。</p> <p>②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。</p> <p>②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を65点に引き上げる。</p>
<p><方策></p> <p>①ICT教材の活用(カフトなど)を導入・復習で多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。</p> <p>②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。</p> <p>②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を65点に引き上げる。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材(カフト等)を活用することで、児童がゲーム感覚で復習に取り組み、学習意欲の向上が見られた。特に、授業内での発話量が増加し、積極的に英語を使おうとする姿勢が育まれた。 ・掲示物を工夫したことで、英語に日常的に触れる機会が増え、単元の重要表現を自発的に口にする児童が増えた。 ・ワークシートや教科書を活用した学習の定着率が向上し、平均点が60点から65点に上昇した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上が見られたものの、依然として約40%の児童が受け身の姿勢で学習しており、さらなる工夫が必要である。 ・ローマ字の読み書きの苦手意識が依然として強く、スキルタイム以外にも日常的に活用する場面を増やす必要がある。 ・聞き取りや読み取りの苦手な児童に対する個別支援が不十分であり、多様な学習方法の導入が求められる。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材の活用を継続しつつ、ペアワークやグループ活動を増やし、実際に英語を使う機会をさらに確保する。 ・ローマ字入力の練習機会を授業内外で増やし、タイピングや手書きをバランスよく取り入れる。 ・聞き取りや読み取りが苦手な児童に対し、音声教材や視覚支援を取り入れ、個別にアプローチできる指導法を検討する。 ・児童の学習意欲を高めるため、成功体験を積ませる仕組み(小テストの達成度評価、シールラリーなど)を導入する。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語のやり取りに対して抵抗感を持たず、自信をもって発話しようとする姿勢が身についている。 ・ローマ字の読み書きに慣れ、スムーズにタイピングや手書きができるようになっていく。 ・聞き取りや読み取りの基礎力が向上し、簡単な英文を自力で理解できるようになっている。 ・学習意欲の低かった児童も、英語を使うことに楽しさを感じ、積極的に取り組めるようになっていく。 			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・教材の内容が実生活とつながっていない児童が3割程度いる。・場面の課題を受けて、自分の考えやよりよい行動が適切に考えて書けない児童が3割程度いる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・教材提示、板書を工夫しながら授業のねらいが視覚的にとらえられるようにする。・「なぜ」「どうして」「自分だったらどうするの」を問答しながら、みんなで考えていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ICT機器やイラストを用意して場面を捉えやすくし、考えられるようにする。・実生活の課題から教材を作ったり、話題を実生活に置き換えたりして学習内容と生活課題を結び付けていく。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①人物の態度や表情、周囲の様子などが分かるよう ICT 機器を使ってイラストを提示して注視させることで、場面を捉えやすくし、自分の考えをもてるようにする。</p> <p>②実生活の課題から教材を作ったり、実生活に置き換えたりして課題と結び付け、自分事として考えられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p> <p>②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p>ICT 機器やイラストを用いたり、身近な話題に置き換えたりすることで場面の様子をイメージしやすくし、道徳的な心情を深めて考えることができた。</p> <p><課題></p> <p>発言者に偏りが多く、友達の意見や考えに流される児童がいた。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・道徳的価値に気づき、判断・行動できる実践態度を養っていくために、身近な事柄を教材化するなどして研究を深めていく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えに対する根拠をもち、他者の意見にも耳を傾けることができる児童	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 総合的な学習の時間〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ウミガメについての知識を知る時間が長く、児童主体の問題解決学習になっていない。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。・学習の振り返りを学習ごとに行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・カリキュラムの再編成により、1学期はウミガメについての知識理解を体験を通して行い、2学期をウミガメの生態学習と課題発見、課題解決にバランスよく取り組ませる。3学期に発表する。・意欲を持続させるために、身近なウミガメを更に身近に感じさせるように体験学習の回数を可能な範囲で維持する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①児童が課題を見付けられるように授業を組み立て、課題解決を自主的に出来るように意欲喚起を行う。②体験活動によりウミガメを身近に感じさせ、更に意欲が増すようにする。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">・1学期に知識を深め、2学期に課題発見・解決へとつなげる流れが、児童の主体的な学びを促す形となった。・体験活動を維持したことで、児童がウミガメに対する関心を継続し、学習意欲が高まった。・発表活動を通じて、学習の成果をアウトプットし、他者に伝える力が向上した。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・児童によって課題発見の深さに差があり、自主的に取り組む児童と受け身の児童の間に差が生じた。・体験活動が多いことで満足し、学習の振り返りが十分にできない場面があった。・発表に向けたまとめの段階で、調べたことを整理し、伝える力を育むための支援が必要であった。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・児童が主体的に課題を見つけ、探究する時間を確保するために、知識習得と課題発見のバランスを再調整する。・体験活動後に、学びを深めるための振り返りの時間を意識的に設ける。・児童同士の意見交換の機会を増やし、多様な視点を持つことで、より深い課題発見や解決策の考案につなげる。・発表活動に向けた情報整理の指導を強化し、論理的に伝える力を育む。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・自ら課題を発見し、探究しようとする姿勢を持っている。・体験活動を通じた学びを深め、考えを整理し、言葉や資料で他者に伝えることができる。・学習を通じて得た知識や経験を、生活の中で活かし、持続可能な社会の一員として行動できる。	

